

**尼崎市教育振興審議会 第4回審議会
議事録**

日時	令和6年10月15日（火）18:00～20:00
開催手法	対面
出席委員	堀田会長、石橋委員、川上委員、北地委員、芹澤委員、時水委員、庭山委員
欠席委員	なし

審議

アンケート結果について

委員：保護者向けのアンケートでの重要だと思う新規施策について、スクールロイヤーの設置が一番多いが、保護者の皆さんがきちんと施策の内容を理解して回答できているかが気になっている。私自身もこの施策の詳細を理解できていないこともあり、なお一層である。

事務局：アンケートの実施にあたっては、簡単な説明文を入れているが、どこまで正確に理解しているかはわからない。ただ、今後の施策の展開にあたっては、市民に発信をするにあたって、注釈をつけるなど分かりやすくする工夫をしていきたい。

会長：アンケートの結果において、比較的值が高いものは施策として声を反映していくべきと思うが、値が低いものの、他市が導入をしており、本市より進んでいるケースもあると思う。たとえば地域クラブ活動は、他市は本市より進んでいる部分があると思う。そういった施策は、見通しを一定記載したほうが良い。計画内に記載するかどうかは要検討だが、何らかの踏み込んだコメントが必要ではないか。

事務局：アンケートの項目に記載している施策には、既に進行中のもの、これからやっていくもの、と混在しているが、日ごろから情報提供が重要であると感じている。

会長：市政アンケート・保護者アンケートの中でも確かな学力の育成が高く、特に中学生が高い。これは小学生からの積み上げが重要であるという考え方もある。その側面も含めて計画に反映をするべきである。

委員：中学生になって小学校のときの勉強が大事だったと感じることが多い。受験を目の前にしたときに、学力の重要性を感じているのだと思う。やはり小学生からの積み重ねを意識してほしい。

事務局：今の意見はおっしゃる通りで積み重ねが重要で、小学生から基礎学力の定着に取り組んでいる。帯学習や放課後学習の実施などを行っているが、引き続き学習の積み重ねを大切にして取り組んでいきたい。

会長：8ページ、学校給食の食材費高騰も値が高いが、無償化は予算の兼ね合いもあり難しいと思うが、検討は必要かと思う。やはり保護者からすると、他市との比較で重要なポイントになると思う。

委員：16 ページ、教育振興基本計画を知っていますか、の問いがあるが、今の周知の方法

はどうなっているか。

事務局：毎年、教育振興基本計画に基づいた重点取組項目を定めて校園長に対して通知をしている。

事務局：今回、新たな計画を策定するにあたって、教員に関わって頂きたいという想いもあり、夏にワークショップを行い、計画のサブタイトルを考える取組をした。こういう機会をとらえて、計画に関わって頂く機会を増やす取組をしたい。

会長：現行計画の策定時に、計画の認知度に関するアンケートは取っているか、

事務局：取っていない。前回は第1期計画ということもある。

委員：3点ある。17ページ、やりがいを感じているか、の部分。肯定的な回答が9割強だが、これをどう捉えるか。1割は感じていない。こういった部分への支援策が必要。それと関連して、18ページの部分、子どもたちの成長が感じられたときにやりがいを感じているという回答も多い。成果指標でどう変わったかということも客観的に先生方にフィードバックできればと思う。もう1点、そもそもこのアンケートはどのように回答者に返していくつもりか。きちんと自分たちの声が反映されたかということが分かるようになれば良いのでは。

事務局：この結果は計画に掲載することを考えているが、加えて何らかの形で公表したい。

会長：アンケートを取る時に、結果公表の知らせがあったほうが良かった。

事務局：学校で校長が面談をし、その際にお話しをする中で校長がアドバイスをしている。あるいは、同僚の中で話をする中で、困っている先生をフォローするような環境作りが重要である。そのためにも、学校で目標を立てて、校内でしっかり共有して取り組めるようにサポートしていきたい。

会長：児童生徒が不登校になるときに、アンケートを取ればきっかけがわかるように、10%の教員に対するアプローチを出していかないといけない。やりがいを感じていない先生に伝わるように。

委員：学校によっても差があると思う。学校へのアプローチが重要だと思う。

委員：27ページ、スクールサポートスタッフの導入に効果があったとのことだが、もっと増員する方向で検討してはどうか。

事務局：当然、増やしたいという想いもあるが、予算との兼ね合いもある。学校を支える手法については、毎年工夫しながら検討をしている状況である。

会長：成り手不足の側面もあるのか。

事務局：スクールサポートスタッフの職務内容には、高い専門性を求めているわけではないので、成り手不足の側面はあまりない。

会長：出退勤システムに効果が少ないとの声が多いのであれば、その財源をスクールサポートスタッフに活用しては。効果がないというものをもう少し詳しく説明してほしい。

事務局：出勤簿と出退勤システムを並行運用している状況である。その部分が課題であり、システム改修には億を超える予算が必要ということもあり、検討課題である。

会長：28ページの自由記述の部分で、幼稚園へのWi-Fiの記載があるが、今後の計画はど

うか。

事務局：来年度向けに予算要求中である。

会長：22 ページに教頭先生の負担軽減が必要とあるが、計画には具体策が出るような記載をしているのか。

事務局：現状では具体策を細かく記載しているわけではない。引き続き課題として検討をしていく必要がある。

委員：教頭先生の在職経験年数によって、超勤時間等も変わるかと思うが、把握しているか。

事務局：今回のアンケートでは把握していない。

委員：他市では、1年目の教頭を助けることを目的に、教諭に対して、教頭補佐や教頭補助という役職を与えている事例もある。

委員：教頭先生の超勤については、教諭の時とは仕事内容が大きく変わることに加えて、慣習として教頭がやることになっているものも多いと思う。例えば、学校の施錠は教頭だ、というようなことがある。規定されていないものの、慣習として教頭がやることになっているものの洗い出しが必要かと思う。ぜひ踏み込んだ精査を。このあたりの話は、今後管理職の成り手不足問題に直結するので、教頭試験に手を上げない先生が増えてしまうことにならないように。

会長：計画にどこまで反映できるかも含めて、是非今後の施策展開で検討を。家に持ち帰っての作業も多いと思う。学校での超勤だけが減るといような本末転倒なことにならないように。

委員：23 ページの部分、超勤時間×やりがいについても、もう少し踏み込んだ精査が必要。ワーカホリック的にやりがいを感じている方と、ワークライフバランスの充実の中でやりがいを感じている方と、もう少し分析が必要。非常に長い時間でやりがいを感じている方も一定数いて、健康面のリスク管理も重要になってくる。

委員：アンケートでたくさんの回答が出てきて、具体的な1つ1つをどう反映して、反映しないか、の選別はどのようにしているか。自由記述で書かれているものも重要であるし、数値だけでは測れないものもあると思う。

事務局：川上委員からもデータの深堀を示唆頂いたが、この結果を深堀や違う視点で分析することが我々にもっと求められる。そういった視点で事業を組み立てながら、計画の進行をしていく。我々自身も興味深いデータだったので、アンケートを継続していきたいという想いもある。

会長：数値と計画への反映についての整合性に欠ける。そのあたりは、しっかり整理をしていく記載する必要がある。

たたき台の修正箇所について

委員：いじめ防止の成果指標について、大人も含めた「私たち」と認識できるよう、もう少し範囲を広げられるような指標としてもよいのでは。

会長：子どもたちにとっても理解しやすいよう調整を。

委員：7 ページの共有と発信とあるが、保護者アンケートで教育委員会の活動を認識しているか、の回答に学校からのお便りが多いが、教育委員会からのお便りもあっても良いのでは。

会長：保護者側もいろいろなものが来ると、本当に大事なものが読み取れない可能性もある。X 等も使っていると思うので、媒体の使用について整理を。

委員：非認知能力向上の指標について、「自分にはよいところがある」とあるが、重要な項目であるが、いわゆる自尊感情や自己肯定感について、この項目は自己評価の側面、もう 1 つは自己受容の側面もある。「自分のことが好きだ」を加えても良いのでは。

会長：10 ページ、1 つ目の ICT の使用率について週 1 回を指標としているが、週 3 回でなくてよいのか。検討を。

計画のサブタイトルについて

会長：5 ページの部分の思考力・表現力に主軸を置いた意見とあるが、その背景には、基礎基本ができていないという側面も強いと思う。基礎基本をいかに子どもたちにつけていくかが重要である。もう少しサブタイトルには、そういった側面が入ればという思いもある。

委員：自分をつくり～、の前に「●●な」と入れて、土台を作るということが伝われば良いのでは。

委員：具体性を持たせたものを入れると長くなるという課題もある。そうすると、この程度の長さが良いのでは。

会長：「あまたの可能性」が言葉として通用するか。

委員：意味は分かるのではないか。

委員：私は尼崎への愛を凄く感じたので、良いと思った。パッと受け取る分には心地よい感じを受ける。

委員：ファシリテーターとして意見交換会に参加したが、先生方からも積極的な意見があった。子どもたちに夢と希望をもって、という意見が多く出てきてこういう形になったということも察する。地元愛という声も大きかった。先ほどのアンケート結果との整合性もあり、良いのでは。

委員：教育大綱や基本方針との関係もあり、基本方針が浮かぶような関連性も持たせるべきである。基本方針を触るか、サブタイトルを触るか、手法はいくつかあるが、サブタイトルを思い出せば基本方針の骨子が思い出せるように。

委員：この意見交換会の内容を各論の中にも記載をするべきだと思う。今の先生たちはすごく頑張っていると思う。子どもたちにとって自己表現が難しいということの現れだと思うし、各論の中にぜひ記載してほしい。

会長：教員アンケートとワークショップが上手くかみ合っていれば、記載もしやすいと思うが、中々難易度は高そうである。どうか。

事務局：具体的な書きぶりに加えることは難しい部分があるとも思う。

事務局：サブタイトルについて、議題１のアンケートにもあったが、計画が教員に浸透していないという課題もあり、尼崎らしい一言で言い表せられるものを出せればと思い、庭山委員にもご協力いただき教員との意見交換会を行った中で出てきた案を踏まえて作成したものである。尼崎に対する誇りと愛着を持ってもらうよう、今年から小学生が歴史博物館や尼崎城を訪れるという「AMATAN」事業も実施している。学校の教員と力を合わせて、子どもたちの可能性を拓くことができればという思いで、このサブタイトルを考えたところである。今後、教育大綱や基本方針、サブタイトルが合致するよう工夫していきたい。次回、第５回には中間報告をいただくことになるので、本日いただいた成果指標等の意見を踏まえて計画案の精度を高めていきたい。

以 上